

★「コシヒカリ」の幼穂形成期は平年並

★「ふさおとめ」は7月9日頃から出穂期を迎える

1 君津地域の生育概況

4月20日植えの各品種の出穂期は、最も早いところで「ふさおとめ」が7月9日頃、「ふさこがね」が7月11日頃、「コシヒカリ」が7月19日頃と予測されます。

また、5月1日植えのコシヒカリでも幼穂形成期を迎えているほ場も見られることから、各ほ場をよく見て、生育の進みに応じた作業を適期に実施しましょう。

2 生育調査ほの調査結果（6月26日または幼穂形成期調査）

品種	年	田植え日	草丈(cm)	茎数(/m ²)	単葉葉色	幼穂形成期
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	29	4/17	56	669.0	39.4	6/13
	平年	4/16	56.8	655.2	43.2	6/18
	平年比	+1	99%	102%	91%	-5
ふさこがね (君津市) ※2	29	4/20	53	562.0	44.5	6/16
	平年	4/19	54.5	623.2	41.3	6/19
	平年比	+1	97%	90%	108%	-3
コシヒカリ (君津市) ※2	29	4/16	63	539.5	33.3	6/24
	平年	4/20	63.8	596.0	33.6	6/24
	平年比	-4	99%	91%	99%	±0
コシヒカリ (木更津市)	29	4/29	64	676.5	35.9	6/28
	昨年	5/1	70	537.7	40.3	6/26

※1 平年値は過去10か年(2007~2016年)平均値。ただし、木更津市のほ場は26年から調査を始めたため、平年値はなし。

※2 29年の君津市ふさこがね及びコシヒカリは一発肥料を施用している。

-農業事務所より郵便で配信している方へお願い-

稲作情報の配信を郵便から、電子メールまたはFAXに切り替えを進めています。
電子メール・FAXをお使いの方は、下記までご連絡ください。
連絡先 青木 y.aoki31@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299 (電話)

3 これからの管理のポイント

① 米の品質向上のための水管理

登熟期の水不足は、減収と乳白米等の白未熟粒の多発生による品質低下の原因になります。特に出穂期～出穂後 10 日前後は高温の影響を受けやすいことや、自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも、水管理に十分注意しましょう。

● 出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理

高温時の品質低下を防ぐためにも、この期間は田面が露出しないよう、しっかりと湛水管理を行いましょう。

● 出穂2週間後～出穂25日後までは間断かんがい

米粒の充実と品質向上のために出穂25日後までは、水が必要となります。

② 農薬の収穫前日数に注意

ほ場の生育状況によっては平年と比較して出穂期が早まる可能性があります。ほ場ごとの出穂期をよく確認し、出穂期から収穫期までの目安の日数を参考にして、収穫時期の見込みを立て、各農薬の収穫前日数に注意して、農薬を使用しましょう。なお、隣接ほ場の方が収穫時期が早くなることが見込まれる場合は、より慎重に散布を行いましょう。

品種	出穂期から収穫期までの目安
ふさおとめ	33 日前後
ふさこがね	37 日前後
コシヒカリ	38 日前後

※出穂期とは全茎数の
40～50%が出穂した日

※目安の日数は平年並みの
天候の場合

③ 斑点米カメムシ類の防除

斑点米カメムシ類は、水田周辺に生息していた成虫が水稻の出穂後に水田に侵入します。防除適期は、成虫飛来期である「穂揃期（出穂期から2、3日後）」と、侵入した大型の斑点米カメムシ類成虫が産卵し、卵から孵化する「出穂15日後頃」です。

大型の斑点米カメムシ類は、水田に侵入すると産卵し、成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期から糊熟期の吸汁によって被害が発生します。

カスミカメムシ類は、小さく発見しにくい害虫です。天候と生育の関係で登熟中の籾殻が開く（籾割れ・ふ割れ）と、開いた所等から吸汁し被害を与えます。出穂が、周辺よりも早いものや遅いものは、集中的な被害を受けることがあるので、特に注意しましょう。

また、出穂期前後の草刈りはカメムシ類を水田の中に追い込んでしまいますので、畦畔雑草は出穂2週間前頃までに刈り取り、その後、収穫期まで雑草が出穂しないよう努めましょう。

④ いもち病、稲こうじ病、紋枯病の防除

○いもち病

止葉などの上位葉に葉いもちの病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。さらに発生が続く場合は、天候等を考慮した上で穂揃期にも追加防除を行いましょう。

○稲こうじ病

稲こうじ病は穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では防除時期である出穂前に、薬剤防除しましょう。

○紋枯病

紋枯病は、茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。昨年は飼料用米品種で発生がみられたので注意しましょう。

※ 次号は「7月28日頃」発行予定